

携帯通し病棟に演奏

早島養護学校元教諭ら中継

障害児、一緒に歌楽しむ

電話で会場の模様を中継した。病棟と会場の映像が双方に流れ、歌を一緒に楽しんだ。

同病棟に入所する養護学校生徒に音楽を楽しんでもらおうと企画した。会場に集まった養護学校生徒や住民ら約百三十人を前に、県立岡山養護学校教諭の大月永子さんから県内の養護学校教諭六人がピアノやギターを演奏。大月さんが早島養護学校勤務時代、数字が書けず泣いていた女の子の思い出を歌った「すうじの「0」が書けないうん」や、生徒の詩にメロディをつけた歌などオリジナルの約十曲を披露した。

ルームにある携帯電話で受信。テレビにつなげて映し出されると、入所している生徒がうれしそうに見つめていた。会場にも同様にスクリーンが設置され、入所生徒の映像に参加者が手を振っていた。

同法人の呼び掛けで、金沢こども医療福祉センター（金沢市）に入所する障害児たちとも映像を結び、お互いに会話を楽しんだ。

（鈴木麻美）



携帯電話を通して病棟の生徒たちに中継されたコンサート＝ゆるびの舎

県立早島養護学校の元教諭らが九日、早島町前瀬の「ゆるびの舎」でコンサートを開き、国立病院機構南岡山医療センター「つし病棟」（同町早島）の外出できない重症心身障害児の生徒のためにテレビ機能付き携帯

会場の模様は、東京のNPO法人や地元のパソコンボランティアの協力を得て携帯電話で撮影さ

山陽新聞
2007年6月10日(日)